

平成23年度事業報告書

自平成23年4月 1日

至平成24年3月31日

I. 事業活動の概要

運営の合理化に注力しつつ、「環太平洋学術研究奨励事業」、「北京日本学術研究センターとの共同事業」、並びに「当財団の事業について普及・啓発・啓蒙を行う事業」を着実に遂行した。また、公益法人制度改革に伴う移行対応の手続きを進め、内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けた。

1. 環太平洋学術研究奨励事業

- | | | |
|-----------------|----------|-----------|
| [1] 第27回大平正芳記念賞 | 4件と特別賞2件 | クリスタル牌、賞金 |
| | | 500万円 |
| [2] 第25回学術研究助成費 | 1件 | 助成費 100万円 |

平成23年6月10日に上記の授賞式を日本工業倶楽部で行った。

2. 北京日本学術研究センターとの共同事業

2011年12月1日(木) 15:30~19:00

於：北京日本学術研究センター 多目的ホール

北京外国語大学 迎賓レストラン

「第七回日本語優秀学位論文大会」表彰式、『大平正芳全著作集』贈呈式、並びに「日本学術名著翻訳発行式」を開催するとともに、記念レセプションに出席した。

(1) 「第七回日本語優秀学位論文大会」表彰式

①当財団を代表して、大平知範評議員の挨拶要旨

- ・今回を含めこれまで合計40の優秀な「日本語学位論文」に対し賞を授与し、表彰して来たが、昨年、「大平学校」創立30周年を記念し、5回目までの全受賞作をまとめて『日本語優秀学位論文集』として発刊した。

- ・日頃熱心に勉学に励んでいる多くの学生の皆さんの参加を得て、「日本語優秀学位論文賞」の事業が着実に継続し、多くの論文が一冊の本に収録されて発刊され、北京日本学研究中心・北京外国語大学を始め、中国全土の大学・大学院・専門学校等におきまして、日本語教育と日中文化交流の促進に向けて、本論文集が広く活用されている様子を、天国の大平正芳も大変喜んでのことと思う。
- ・本題から若干外れるが、皆様方の先輩である、朱琳(しゅりん)さんが、本年度、当財団が行っている、「環太平洋学術研究助成」事業の個人研究に応募され、見事受賞された。
- ・皆さんも、日本学研究中心を修了された後、様々な分野で活躍されることとなるが、機会があったら、是非とも、当財団の環太平洋学術研究奨励事業にも応募されることを期待したい。

②北京外国語大学副学長 鐘美孫様のご挨拶要旨

- ・日本語優秀学位論文賞表彰事業により、成績が優れた学生が奨励されたことだけでなく、今研究に取り組んでいる学生に明確な方向を示しており、非常に大きな意義を持っている。大平正芳記念財団をはじめ、日本大使館、日本国際交流基金、日中友好関連団体の皆様のご支援に対し、深く感謝する。
- ・最近、当大学の幹部が代表団を率いて訪日した。訪日中、日本国際交流基金、東京外国語大学、神戸大学、関西大学などを訪問した。これらの行動を経て、両国の文化、教育における相互理解を深め、また今後の教育における位置を得た。我々は今後とも中日両国の持続的互惠関係を築き、ともに世界のいろいろな問題に対応し、両国の社会・経済・教育の共同発展を図るよう期待している。
- ・中日両国の相互理解と協力を深めるために、中日両国の間の架け橋になるような人材の育成が必要となる。当大学とセンターは、こうした人材育成の事業に取り組んでいる。また今後とも、大平正芳記念財団、日本大使館、日本国際交流基金、友人の皆様からの引き続きのご協力とご指導をいただけますようお願い申し上げます。

③国際交流基金 北京日本文化センター副所長 高橋 耕一郎様のご挨拶要旨

- ・大平正芳元首相は、北京日本学研究中心の成り立ちを語る上で欠かせない存在であり、また、後に縁あって大平正芳記念財団様による多大なご支援を頂戴していることは、このセンターの教育研究

活動において、この上なくありがたいことだと感じている。

- ・ 来年2012年は日中国交正常化40周年を迎え、様々な記念行事が華やかに行われることと思う。
- ・ こういった中であって、今のこの交流の礎を築いた先人のことを忘れず、引き継いでいくことが我々の使命でもあらうと感じている。
- ・ また、そのみならず、常に発展向上を目指し、若い研究者の皆さんが、これまでの交流の歴史を踏まえつつ、日中両国がともに生きていくため、そして、世界の平和と人類のより良い未来を見据えるという大きな観点から、学習や研究活動に励んでいただけたらと期待している。
- ・ 私たち国際交流基金もそのような皆様の活動をサポートするべく、出来る限りの努力をしていきたいと考えている。

④受賞者への賞状と記念品の授与

多くの応募者の中から、次の5名に賞状と記念品の授与を行った。

受賞者	研究分野	論文題目
蔣偉	日本語教育	教師評価についての中国若手日本語教師の意識 —教師の成長という観点からのケース・スタディー—
陳文	日本文学	武田泰淳「蝮のすえ」論 —知識人としての精神的主体性の再構築—
李亜	日本文化	大塩平八郎の挙兵の思想的構造への探求 —理想と現実との衝突—
李占軍	日本語言	認知言語学による取り立て助詞の研究 —限定を表す「ばかり」「だけ」「しか」「こそ」 を中心に—
翁舒	日本社会経済	育児休業法が女性労働者の採用に与える影響

(2) 『大平正芳全著作集』贈呈式、日本学術名著翻訳発行式

①趣旨説明

大平正芳記念財団評議員 大平知範より、財団を代表して趣旨説明を行った。要旨は以下の通り。

- ・ 大平正芳記念財団は、昨年設立25周年を迎えることができたが、大平正芳が多くの原稿・文書・スピーチ集を遺したことから、この25年間に14冊の本を出版した。
- ・ その集大成として、昨年、生誕百年記念事業の一環として『大平正

芳全著作集』全7巻の発刊事業を開始した。

- ・この全集には、生前の大平正芳の全著作・論文と新聞、雑誌等での対談・座談会・インタビュー等をすべて網羅・収録しており、いわば大平哲学の神髄を知るための決定版と言えるものである。
- ・昨年より、第1巻から第4巻までを順次、貴センター内の大平文庫に収めており、本日は第5巻を贈呈させていただく。
- ・大平正芳は自国の文化を基本とし、西洋文明とキリスト教を理解し、そして、貴国の歴史に基づく深い教養を自らのものとした、最後の日本人の一人と認識としている。

- ・「日本学術名著翻訳・出版事業」については、北京日本学研究中心による中国国内に向けての文化・教育活動の推進と、中国全土の高校・大学における日本関連の教材の充実強化を図ることを目的として、2007年度に開始した。
- ・すでにご存知の方も多数おられるかと思うが、これまでに、『徳川思想小史』『柳田國男が描いた日本一民族と社会思想』『環境社会』『環境と資源の経済学』『永遠の今に生きる』の5冊を出版し、貴センターをはじめ、全国80を超える高校・大学等に配布を行っている。
- ・本年度は、本日発行の『日本思想史ハンドブック』と後日発行となる『徳川合理思想の系譜』の2冊の発行となる。
- ・日本文化・社会を始め、人文学全般をカバーする、この翻訳出版事業を通じて、貴国における日本理解はもとより、日中両国民の文化交流と相互理解の促進につながるものと大いに期待している。

②『大平正芳全著作集』の贈呈

大平正芳記念財団を代表して、大平知範より、北京日本学研究中心徐一平主任教授に対し、『大平正芳全著作集』第5巻の贈呈を行った。

③日本学術名著翻訳発行式

北京日本学研究中心郭連友主任補佐教授より、本年度対象図書である『日本思想史ハンドブック』と『徳川合理思想の系譜』の内容及び翻訳作業についての説明があり、その後、出版社(外研社)代表より、編集についての説明があった。

(3) 記念レセプションの開催

北京外国語大学迎賓レストランに会場を移して、同大学曹文澤副学長

主による招待レセプションが開催された。約30名の参加者があり、盛況であった。

3. 当財団の事業について普及・啓発・啓蒙を行う事業

(1) 図書の制作と無償配布を行う事業

大平正芳生誕百年記念事業の一環として、平成23年5月に第4巻、平成23年9月に第5巻、平成24年1月に第6巻の発刊を行った。

書店流通分・特別頒布合計の年度末の販売実績は、第1巻について751部、第2巻より漸減して、第6巻は329部であった。

なお、当著作集の一層広範な普及を図るため、時期を見て、全国の大学(社会科学系の学部をもつ)の図書館に300セット程度の寄贈を行う対応については、24年度、最終第7巻発刊後に行うこととした。

(2) 大平正芳記念館運営事業

記念館所蔵の資料について、経年による劣化の防止を図る観点から、順次DVD化を図り、現物展示から映像資料提供への移行を実施するべく、専門業者により、具体的な作業を開始した(獨協大学福永文夫教授の協力により、文部科学省所管の科学研究補助金の資金援助を得ての対応、平成24年度より順次DVD化実施予定)。

国立国会図書館憲政資料室への現物資料の移管については、DVD化を完了した資料から順次実施予定。

当年度累計来館者数は、1,911名(前年度比86名増)であった。

(3) 「大平正芳記念財団の事業」パンフレット及び「大平正芳記念財団レポート」発行事業

① 「大平正芳記念財団の事業」パンフレットの発行

ア. 「大平正芳記念財団の事業」パンフレット

イ. 「大平正芳記念財団の事業活動」(平成22年6月から同23年5月まで)リーフレット

② 「大平正芳記念財団レポート」第29号の発行

4. 公益法人制度改革に伴う移行対応

平成23年10月3日開催の臨時理事会・評議員会において、公益認定申請書類について承認を得て、10月12日付で公益財団法人への移

行認定申請を行った。内閣府公益認定等委員会による数度のヒアリング・照会への対応を経た後、平成24年3月7日付で同委員会より、公益財団法人としての認定の答申を受けることができ、3月21日付で内閣総理大臣より公益財団の認定を受けた(4月1日付移行登記)。

Ⅱ 本年度中の主な庶務事項

1. 理事会、評議員会

平成23年6月10日開催

- (1)平成22年度事業報告書及び収支決算報告書承認の件
- (2)平成23年度事業計画書及び収支予算書承認の件
- (3)理事・監事・評議員任期満了に伴う改選および理事長再任承認の件
- (4)一般法人移行承認の白紙化承認の件
- (5)公益法人への移行認定申請承認の件

平成23年10月3日開催(臨時)

- (1)平成23年度収支予算書修正承認の件
- (2)財団法人三木育英会の解散による吸収合併承認の件
- (3)定款変更(案)承認の件
- (4)役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程承認の件
- (5)運営・選定委員会規程承認の件
- (6)公益財団法人への移行認定申請書類承認の件
- (7)公益財団法人への移行認定申請承認の件

平成24年3月27日開催(臨時)

- (1)平成24年度事業計画書及び収支予算書承認の件
- (2)寄附金取扱規程承認の件
- (3)就業規則(出張規程、給与規程、慶弔見舞金規程、育児介護休業規程を含む)承認の件

2. 運営・選定委員会

本年度中に計4回開催し、第28回大平正芳記念賞・第26回学術研究助成費の授賞作を決定した。

3. 最初の評議員選定委員会

平成23年4月28日開催

- (1)最初の評議員選任の件

4. 主務官庁関係事項

平成23年6月22日

外務大臣に対し、平成22年度事業報告書及び収支決算報告書、並びに平成23年度事業計画書及び収支予算書を提出した。

平成23年6月28日

外務大臣に対し、役員に関する事項について登記完了の報告を行った。

平成23年11月28日

外務省の立ち入り検査を受検し、同日付で外務大臣に対し、平成23年度収支予算書修正の報告を行うとともに、公益財団法人への移行認定申請書類(写)を提出した。

5. 登記事項

役員に関する事項